

縄文人のくらし

— 出土品からみた縄文人の生と死 —

■ 縄文人の暮らし—出土品からみた縄文人の生と死— ■

縄文時代の遺跡と言えば、まずは青森県の三内丸山遺跡や関東地方に多い大規模な貝塚を思い浮かべませんか。一般的に、東日本に比べて西日本では数が少ないと言われています。しかし、ここ滋賀県には、「縄文のビーナス出土」として記憶に新しい東近江市相谷熊原遺跡をはじめとして、400 か所もの遺跡から縄文時代の遺物が出土しており、滋賀県ならではの特徴があります。

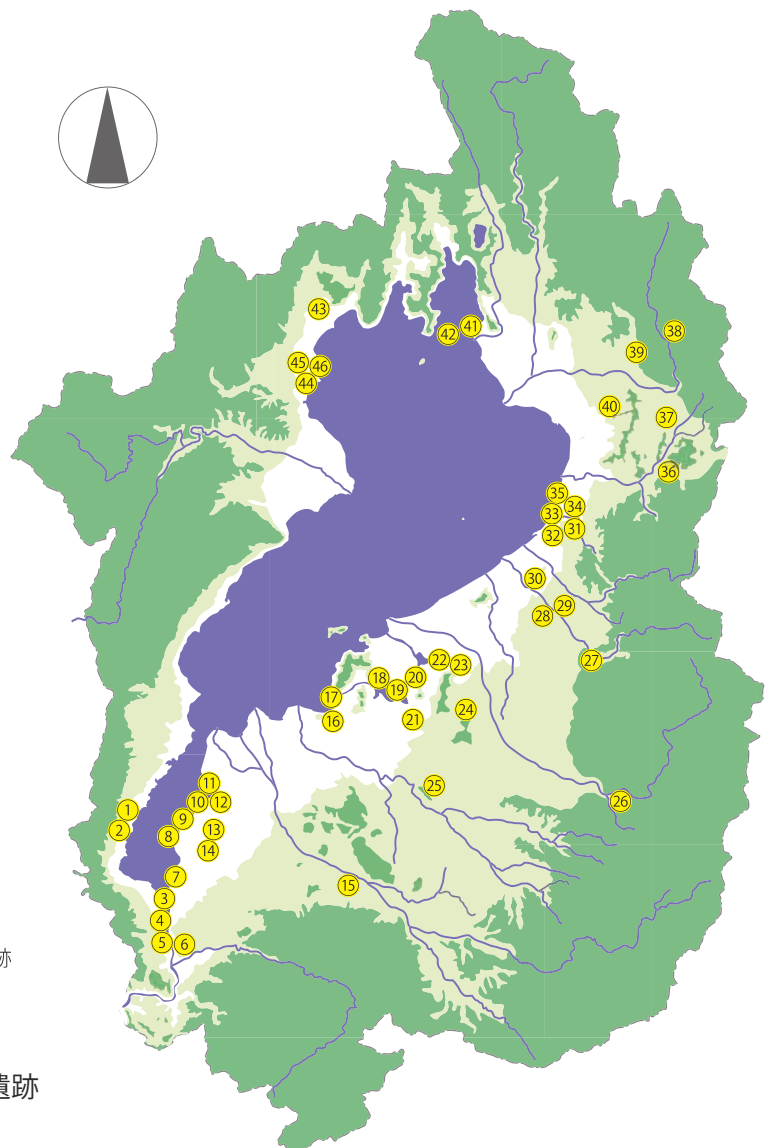
第一に、中央に豊かな水産資源を有する琵琶湖があり、その周辺を山の恵みをもたらす山地に取り囲まれた地勢です。水位上昇などにより今は水没してしまった湖底・湖岸遺跡からは、通常の遺跡ではほとんど残らない有機質の遺物が良好な状態で出土し、人が生きていく上で最も基本であり最も重要な「食」に関する具体的な資料も得られています。これらの水辺の遺跡での生活と山の生活を比較することで、縄文人の行動範囲や環境への適応についても解明することが可能となります。

次に、滋賀県が西日本と東日本の境目にあることから、さまざまなヒト・モノ・文化が行き交っていたということです。当時の主要な道具である石器の中には、県内では産出しないサヌカイトや黒曜石を素材としたものがあります。また、祭祀に用いる土器の表面を彩る水銀朱も、その原料を県内で入手することはできません。これらを求めて、縄文人は山を越え、海を渡ったのです。また、土偶などを使った祭祀や埋葬方法にも、これらの交流をうかがわせる痕跡があります。

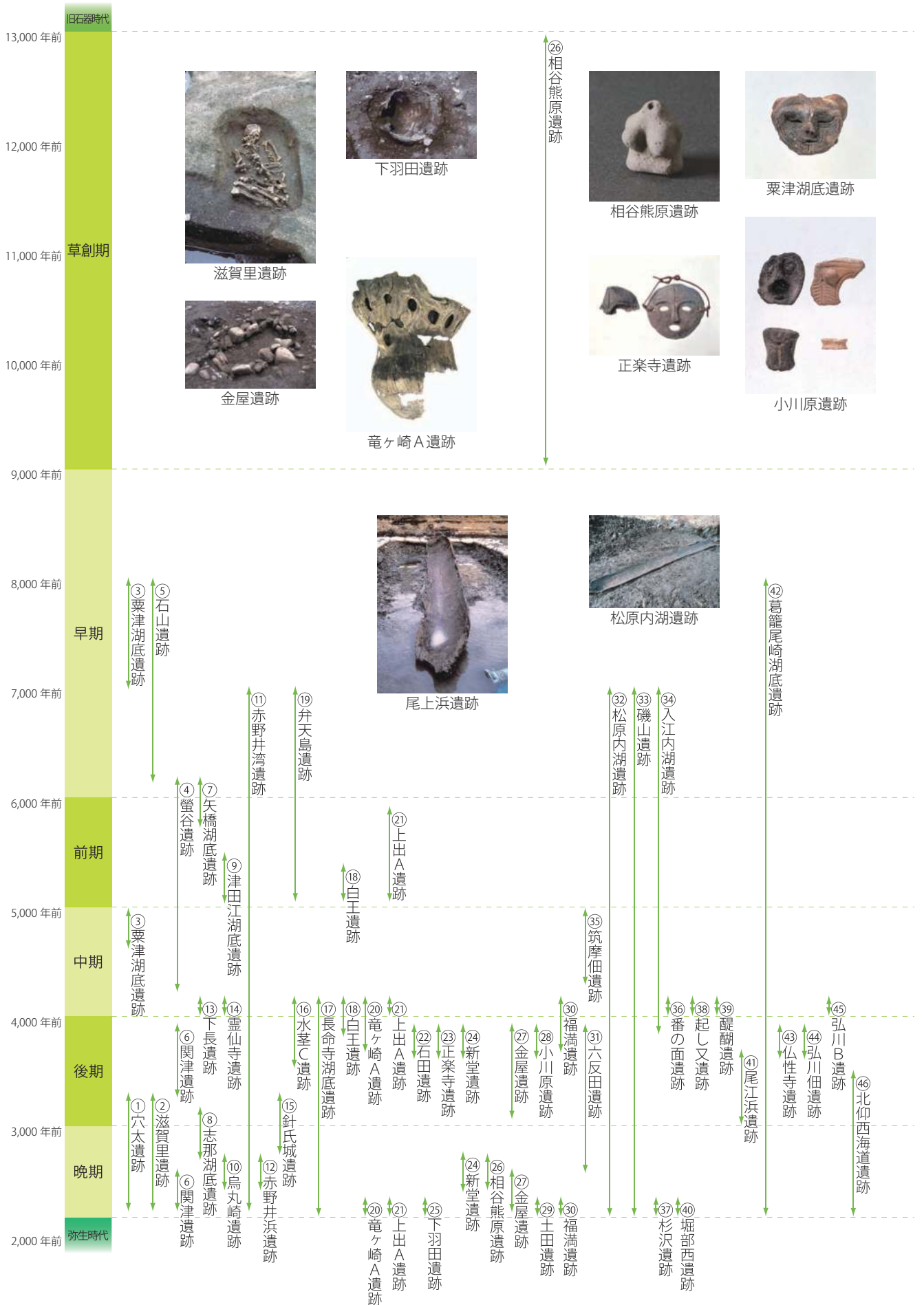
そこで、今回の報告会では、縄文人の生産活動を示す遺物が出土した針氏城遺跡と、湖に面した地で埋葬を行った志那湖底遺跡を取り上げ、縄文人の生と死の一場面を切り取ってみたいと思います。

- | | | |
|-------|-----------|------------|
| 大津市 | ① 穴太遺跡 | ② 滋賀里遺跡 |
| | ③ 粟津湖底遺跡 | ④ 瑩谷遺跡 |
| | ⑤ 石山遺跡 | ⑥ 関津遺跡 |
| 草津市 | ⑦ 矢橋湖底遺跡 | ⑧ 志那湖底遺跡 |
| | ⑨ 津田江湖底遺跡 | ⑩ 烏丸崎遺跡 |
| 守山市 | ⑪ 赤野井湾遺跡 | ⑫ 赤野井浜遺跡 |
| | ⑬ 下長遺跡 | |
| 栗東市 | ⑭ 霊仙寺遺跡 | |
| 湖南市 | ⑮ 針氏城遺跡 | |
| 近江八幡市 | ⑯ 水荃C遺跡 | ⑰ 長命寺湖底遺跡 |
| | ⑱ 白王遺跡 | ⑲ 弁天島遺跡 |
| | ⑳ 竜ヶ崎A遺跡 | ㉑ 上出A遺跡 |
| 東近江市 | ㉒ 石田遺跡 | ㉓ 正楽寺遺跡 |
| | ㉔ 新堂遺跡 | ㉕ 下羽田遺跡 |
| | ㉖ 相谷熊原遺跡 | |
| 甲良町 | ㉗ 金屋遺跡 | ㉘ 小川原遺跡 |
| 多賀町 | ㉙ 土田遺跡 | |
| 彦根市 | ㉚ 福満遺跡 | ㉛ 六反田遺跡 |
| | ㉜ 松原内湖遺跡 | |
| 米原市 | ㉝ 磯山遺跡 | ㉞ 入江内湖遺跡 |
| | ㉟ 筑摩佃遺跡 | ㊱ 番の面遺跡 |
| | ㊲ 杉沢遺跡 | ㊳ 起し又遺跡 |
| 長浜市 | ㊴ 醍醐遺跡 | ㊵ 堀部西遺跡 |
| | ㊶ 尾江浜遺跡 | ㊷ 葛籠尾崎湖底遺跡 |
| 高島市 | ㊸ 仏性寺遺跡 | ㊹ 弘川佃遺跡 |
| | ㊺ 弘川B遺跡 | ㊻ 北仰西海道遺跡 |

滋賀県内の主な縄文時代の遺跡



滋賀県内の主な縄文時代の遺跡



出土品から見た縄文時代の針氏城遺跡

針氏城遺跡で出土した縄文土器は、縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけてのもの（宮滝式～滋賀里Ⅱ式）が大半を占めていました。土器とともに、多量の石器や石器剥片^{はくぺん}が出土しています。これらの出土品を通して、縄文時代の人々の暮らしぶりを垣間見ることができます。

1. 石器作り

縄文時代の石器は、その機能・用途によって、素材となる石材が異なります。石鏃やスクレイパー^{そうき}（搔器）など、鋭利な刃先を必要とする石器は、硬質な石材を打ち割って作ります。製品として必要な形を作り出すには、道具を押しあてて剥離させるなどの微細な加工をおこないますが、その際に生じる破片を剥片と呼んでいます。製品としての石器以外に、剥片が多く出土した場合は、その場所で石器を作っていたということがいえます。

針氏城遺跡では、サヌカイトの剥片が多量に出土しているうえ、石器の母材となる石核も出土していますので、この場所で石器作りを行っていたとみてまず間違いありません。なお、石器製作工房のような建物跡は、今回の調査では見つかりませんでした。

2. 他地域との交流

出土品の中には、針氏城遺跡の近辺では入手できないとされる材質・材料が含まれていました。それは、石器の石材、土器の付着物および胎土です。

①サヌカイト

木の実などを砕いて粉にするための磨石類^{すりいし}や石皿は、遺跡周辺で手に入れることができる花崗岩が使われていますが、鋭利な刃先を必要とする石器にはサヌカイトが使用されていました。

サヌカイトは安山岩の一種で、別名讃岐石ともいいます。その名のとおり讃岐（香川県）の金山・五色台^{かなやま ごしきだい}で産出するほか、奈良と大阪の府県境の二上山^{にじょうざん}、広島と山口の県境の冠山^{かんむりやま}、佐賀県の多久・老松山^{た く おいまつやま}などが産出地として知られています。サヌカイトは産出地ごとに異なる特徴を持っていますので、産出地ごとの分布範囲もわかっています。おおざっぱに言うと、風化面が灰色であばた状になることがあり、破断面が黒っぽいものは二上山系で、風化面が縞状で破断面が白っぽいものは讃岐系といわれています

針氏城遺跡で出土したサヌカイトは、石材の表面観察から二上山系と讃岐系に大別でき、全体の約3分の2が二上山系のもので、特に石核はいずれも二上山系のものでした。言い方を変えれば、3分の1は約250km 遠方の讃岐系のものであり、一番近い産出地である二上山系は3分の2に留まるとも言えます。

石器石材としてのサヌカイトは西日本各地の縄文時代遺跡に広く分布していますが、讃岐系のサヌカイトが最も広域に分布しており、福井県鳥浜貝塚^{とりはま}や愛知県保見遺跡^{ほみ}、大分県左京西遺跡^{さきょうにし}から出土しています。二上山系のものはそれに次ぐ範囲に分布しており、鳥浜貝塚や愛知県榎下遺跡^{えのきした}、高知県双海遺跡^{ふたみ}から出土しています。また、讃岐系のサヌカイト素材については、縄文時代後期中葉以降は板状素材の状態で流通することが指摘されています。針氏城遺跡の石核は二上山系のものですが、その可能性があるものがいくつか含まれています。（S91・S113等）

②赤色顔料

縄文土器の表面に、赤色の顔料が付着するものが4点ありました。科学的な分析の結果、1点のみ鉄が多く、他の3点は水銀と硫黄が多く検出され、赤色顔料にはベンガラ（酸化第二鉄）と水銀朱の2種類があることがわかりました。ベンガラが付着していたのは土器の外面で、水銀朱の付着していたのは内面であることから、ベンガラは土器の外面を飾るためのもので、土器の内面に付着していた水銀朱は、水銀朱を入れた容器があったことを示しています。

水銀朱の原料となる辰砂^{しんしゃ}は、水銀と硫黄からなる鉱物で、産出地は北海道と東北地方北部を除くと中央構造線に沿って分布しており、鉱山として操業されていたものを含めると約100か所にのぼります。水銀朱の使用例として現在知られている最古のものは、縄文時代中期末の奈良県宮の平遺跡^{みや だいら}の石皿や、岐阜県塚遺跡^{つか}の有孔罎付壺形土器^{ゆうこうづつばつき}などがあります。縄文時代後期前葉になると、三重県や徳島県の産出地周辺の遺跡から加工具とみられる石器や水銀朱付着土器が確認されることから、産出地周辺ではその頃には水銀朱の使用が始まっていたとされています。

滋賀県内では、高島市弘川佃遺跡^{ひろかわつくだ}や東近江市正楽寺遺跡^{しょうらくじ}、甲良町小川原遺跡^{こがわら}など、後期の拠点的な集落と位置付

けられる遺跡から加工具や貯蔵用土器が見つっています。針氏城遺跡で出土した水銀朱付着土器は、保管用もしくは運搬用の土器であったと考えられますが、付近の産出地としては、三重県の丹生鉱山や奈良県の大和水銀鉱山が知られています。最近の研究では、各鉱山の辰砂に含まれる微量元素に違いがあり（イオウ同位体比分析）、丹生鉱山と大和水銀鉱山のものは区別できることがわかってきています。今回の分析では、赤色顔料の種別（ベンガラと水銀朱）の同定に留めたため産地までは判明していませんが、距離から考えて丹生鉱山や大和水銀鉱山を含めた三重～奈良～和歌山の大和水銀鉱床群からもたらされたものと推察できます。

③「生駒西麓産」の土器

出土した縄文土器のなかには、他の土器とは異なる特徴をもつものが数点出土しています。これらは、胎土が茶褐色から暗褐色でキメが細かく角閃石という緑黒色の鉱物を多く含んでいます。この特徴を持つ胎土（粘土）については、大阪府の生駒山の西麓で産出される粘土であるという見解があり、この胎土の土器（または粘土）を「生駒西麓産^{いこせいろくさん}」と呼んでいます。

「生駒西麓産」の胎土（粘土）については、地質学的な見地から、同様の粘土は生駒西麓以外からも採取することは可能であるとの見解が出されており、比叡山周辺でも採取が可能とされています。しかし、「生駒西麓産」の胎土は、色調や角閃石の有無など肉眼で容易に他の胎土と判別できることが最大の特徴で、多くの検討がされてきました。これまでの研究で、「生駒西麓産」の胎土となる土器は、古い段階では限定的にみられることはありますが、多くなるのは北白川上層式2期（縄文時代後期中葉／約3,500年前）であるという指摘があります。

高島市弘川佃遺跡の調査では、この特徴的な胎土を、土器がもつ要素のひとつとしてとらえ、形態や文様、土器の製作技法といった他の要素との関連性を明らかにすることで、地域性や地域間交流など遺跡の成り立ちを考えるうえでの有効な手掛かりが得られるとの考えに基づいて「生駒西麓産」の胎土をもつ土器について検討しています。これによると、「生駒西麓産」の胎土をもつ土器は形態の特徴が共通すること、県内の同時期の遺跡（東近江市正楽寺遺跡と甲良町小川原遺跡）と比較すると、「生駒西麓産」の全体に占める割合に差があるものの、形態の特徴が共通することが示されています。このことから、「生駒西麓産」の胎土を持つ土器として流通していたとすると、特定の形態のものが流通していたことになり、「生駒西麓産」の粘土が流通していたとすれば、特定の形態の土器専用の粘土であったことを意味すると結論付けています。

針氏城遺跡においては、「生駒西麓産」の胎土をもつ土器は数点しか出土しておらず、全体に占める割合は1%以下です。また、器形はすべて浅鉢で、弘川佃遺跡の調査とおなじような検討を行うことはできませんでしたが、ベンガラが付着した土器の胎土が「生駒西麓産」であることは注目できます。

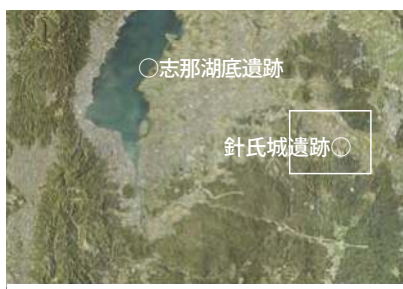
3. まとめ

針氏城遺跡では、建物跡などの遺構は見つかりませんが、出土した多量の剥片は石器づくりを行っていたことを示しています。その石材であるサヌカイトは、二上山や讃岐からもたらされたものであることがわかりました。また、土器に付着していた赤色顔料はベンガラと水銀朱で、水銀朱は近畿地方南部の大和水銀鉱床群からもたらされたものと想定できました。さらに「生駒西麓産」の土器（粘土）の存在など、他地域との交流を確認することができました。

このように、当時の物資の交流が、土器型式分布圏を越えて盛んに行われていたことがわかります。背景には、情報を含めたある種の交易システムが作用していたと考えられますが、これを明らかにするためには、遺跡を構成する遺構や出土品の組み合わせ等を検討する以外にも、ここでみてきたような出土品の詳細な検討を行い、それらを含めた総合的な検討を蓄積することが必要といえます。

参考文献

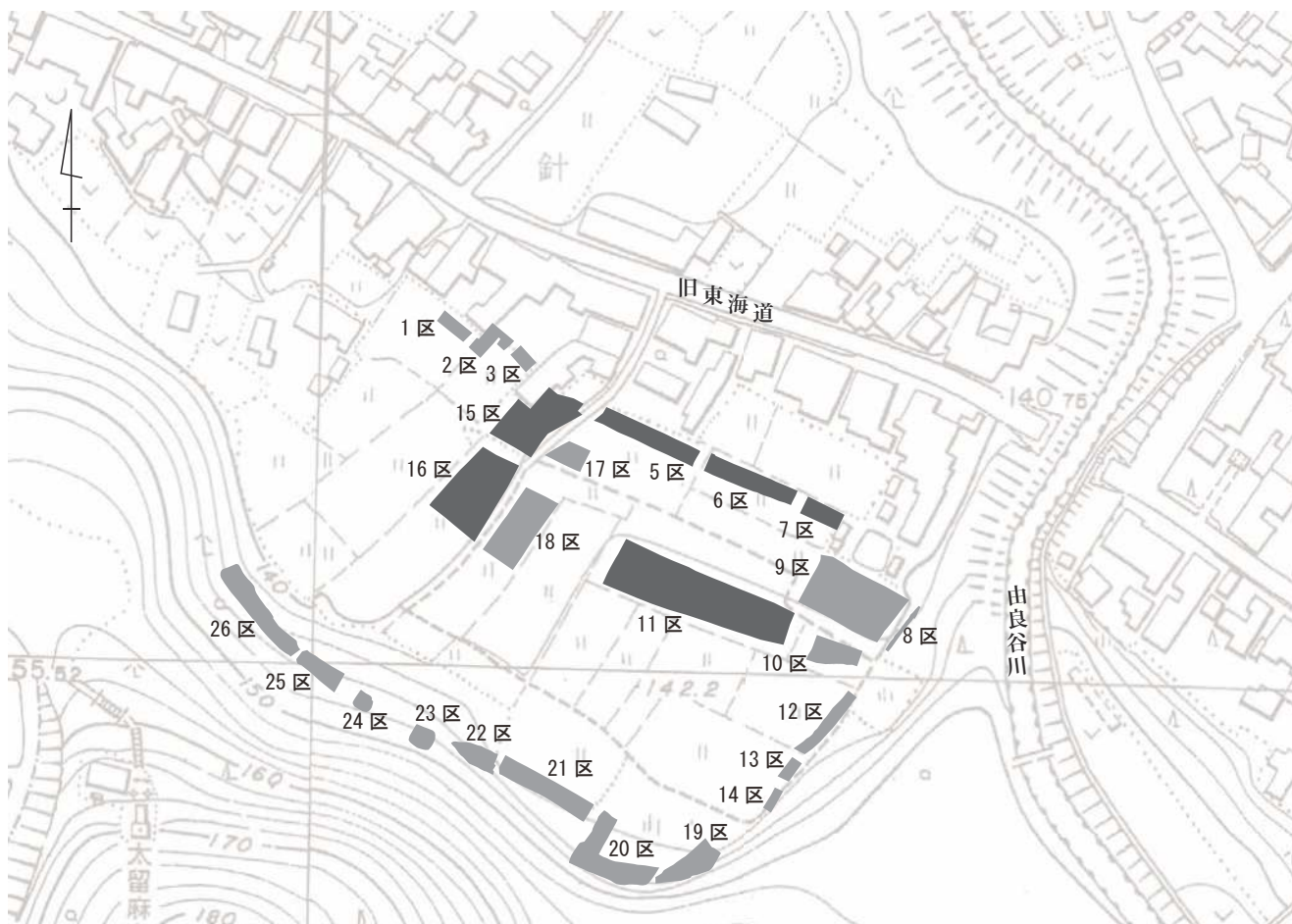
- (1) 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2011『ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書 38-2 針氏城遺跡・井戸遺跡その1・2』
- (2) 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2007『都市計画道路今津川線緊急地方道路整備事業に伴う発掘調査報告書 弘川佃遺跡・弘川宮ノ下遺跡』
- (3) 南武志・豊遙秋・今津節夫 2007「日本における辰砂鉱山鉱石のイオウ同位体比分析」『近畿大学理工学総合研究所 研究報告 第20号』近畿大学理工学総合研究所
- (4) 日本第四紀学会 1992『図解・日本の人類遺跡』東京大学出版会



針氏城遺跡が所在する湖南市は、滋賀県の南東部に位置する。市域の中央部を野洲川が北西方向に流れ、旧東海道・国道 1 号・JR 草津線が平行する。

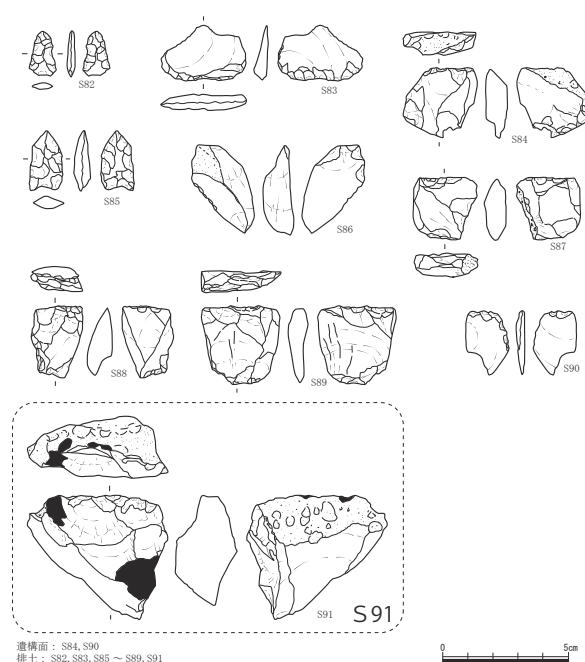
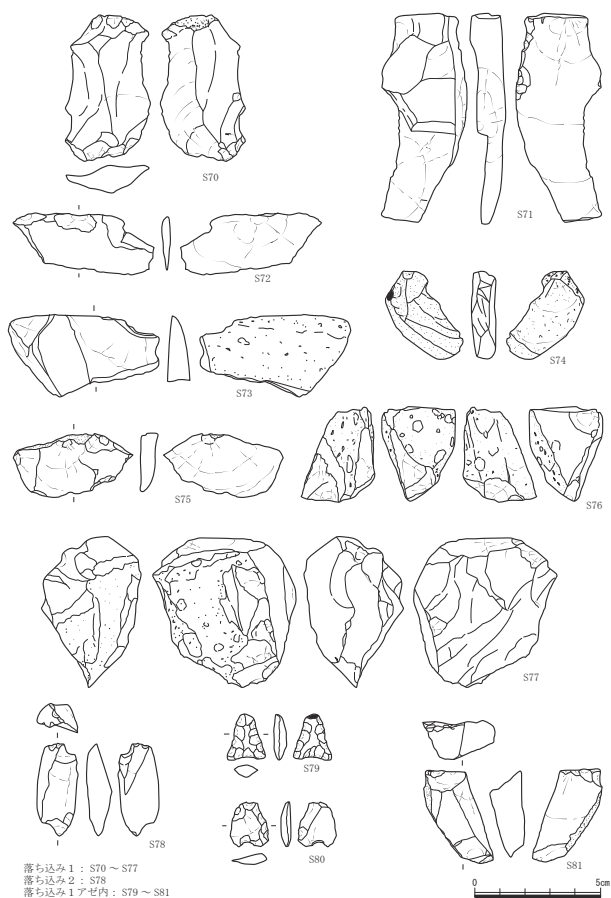
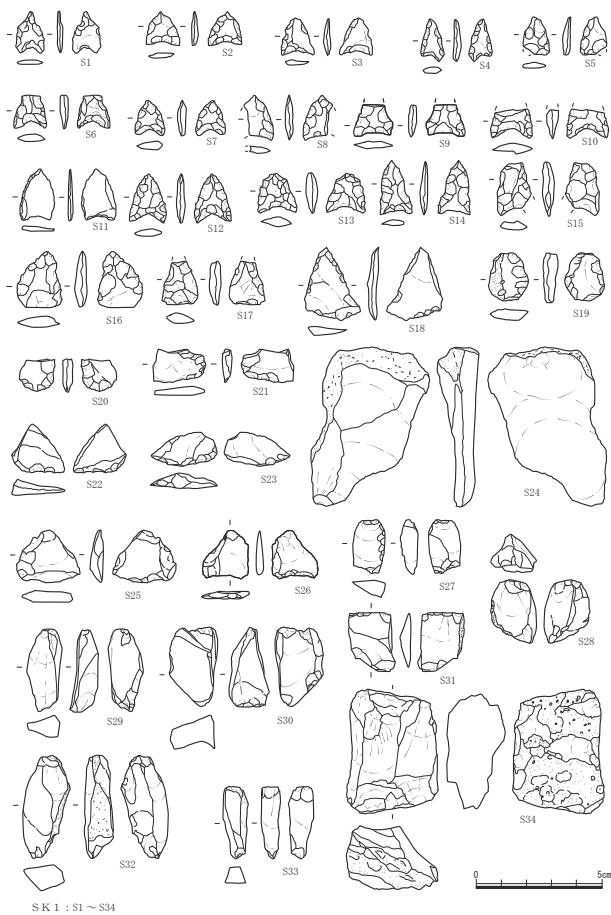
調査対象地は、信楽山地につながる丘陵に接する水田で、天井川である由良谷川が西に隣接する。

針氏城遺跡位置図



試掘調査の結果に基づき、1～26区の調査区を設定。このうち、4区は15区と接するため、15区として調査を実施。縄文時代の遺構・遺物を検出したのは、5～7区・11区・15区・16区。

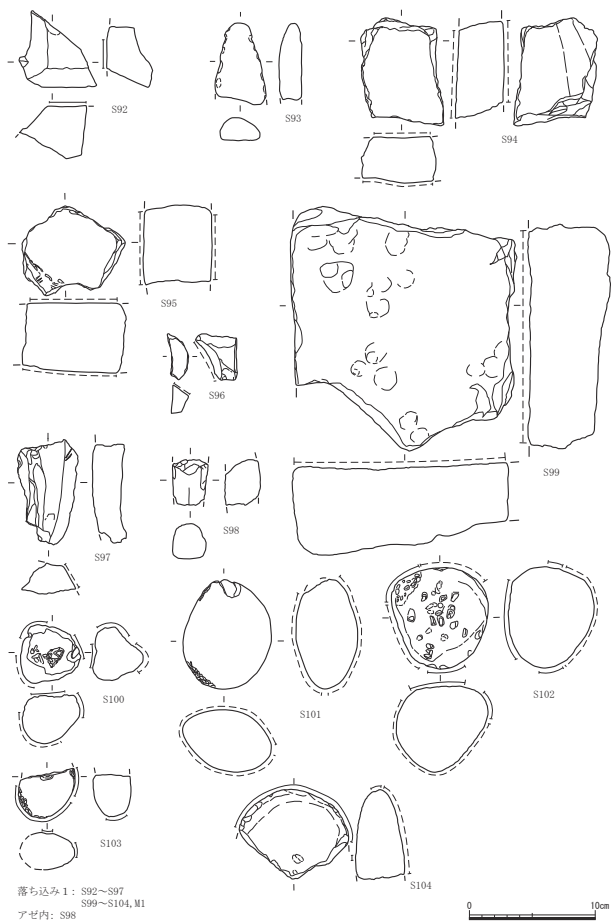
針氏城遺跡調査トレンチ配置図



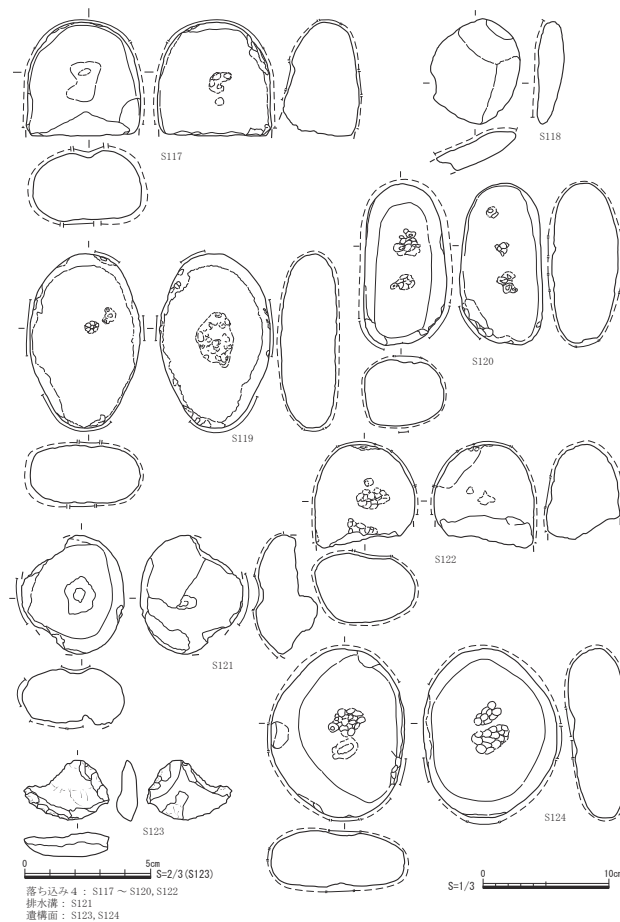
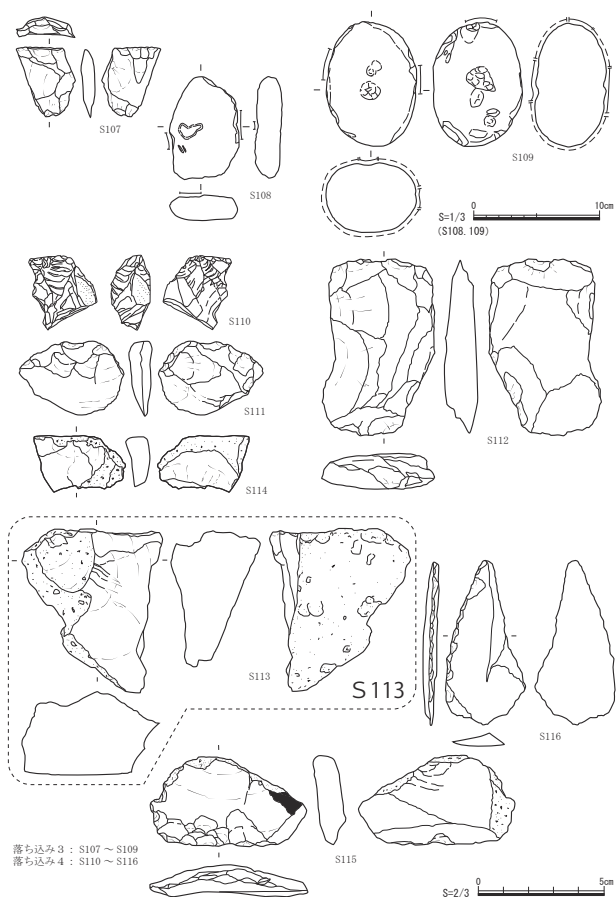
出土した石器には、石鏃、楔形石器、スクレイパー、R.F.（二次加工のある剥片）、MF（微細剥離を有する剥片）のほか、磨石類、石皿類がある。

S93 は砂岩製の石棒か。S72・S73 は粘板岩の剥片である。S110 は水晶製のスクレイパー。S112 の楔形石器は安山岩か。

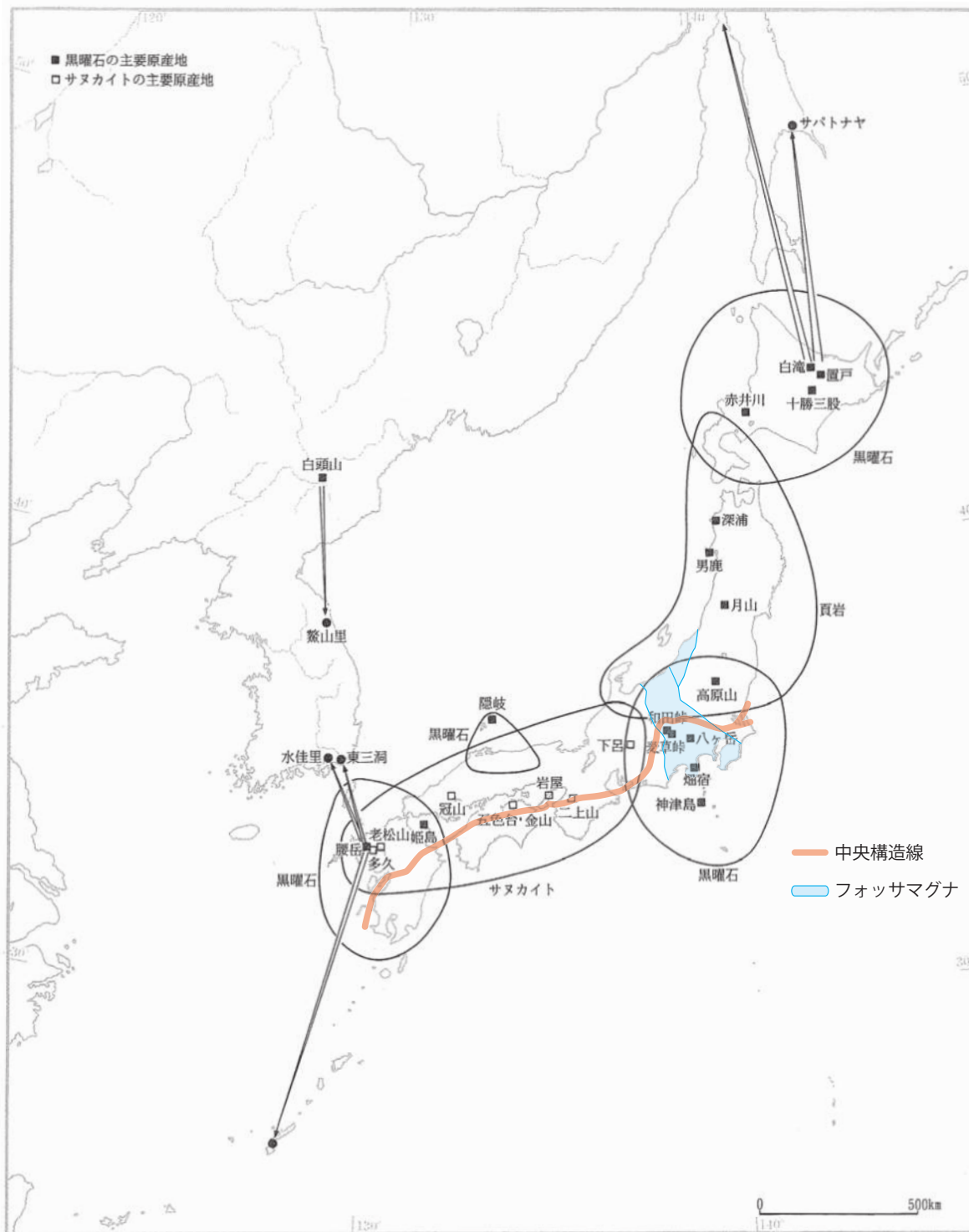
5 区出土石器



5 区出土遺物

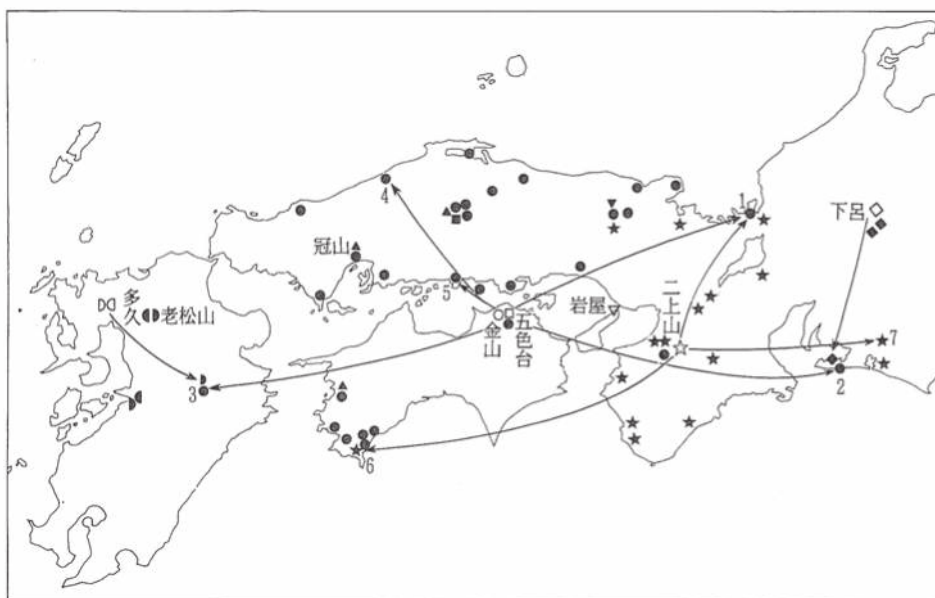


6 区出土石器



石器石材の分布と地殻構造

参考文献 (5) より転載・加筆



サマカイトの分布

⑥ サマカイト原産地と縄文遺跡

サマカイトは西日本各地に広がる。中でも金山産は、最も広域に供給された。東は福井・鳥浜貝塚(1)や愛知・保美遺跡(2)、西は大分・左京西遺跡(3)や島根・岩塚II遺跡(4)などに及ぶ。保美遺跡や左京西遺跡へは海上運搬により長距離移動を容易にしたのだろう。広島・洗谷貝塚(5)へは瀬戸内海を横断した。次いで二上山産も鳥浜貝塚や高知・双海遺跡(6)、愛知・榎下遺跡(7)など遠隔地に及ぶ。それに対して、下呂、岩屋、冠山、多、老松山の産地は、分布が限られる。

参考文献 (5) より転載

縄文時代の墓制について～志那湖底遺跡の調査成果から～

1. 滋賀県の縄文時代の墓の変遷

種類：土壙墓、土器棺墓、埋甕、配石墓、木棺・木槨墓など

(1) 縄文時代早期

大津市石山貝塚

縄文時代早期後半（6500 年前頃）の淡水貝塚、瀬田川の右岸の川岸に位置
土壙墓 5 基（小児 1 基）副葬品（貝小玉）、集石炉 12 基

米原市磯山城遺跡

縄文時代早期後半（6500 年前頃）、磯山と入江内湖が接する低湿地で発見
土壙墓に屈葬人骨、屈葬遺体 2 体

(2) 縄文時代前期

明確な遺構は見つかっていない。

(3) 縄文時代中期

大津市粟津貝塚

縄文時代中期（5000 年前頃）瀬田川川底の淡水貝塚
改葬または再葬墓 約 1 m の貝層の下から頸椎と頭蓋骨が出土

常衛遺跡（配石墓・土壙墓） 御所内遺跡（埋甕、土壙墓） 起し又遺跡（配石）

(4) 縄文時代後期 墓の検出例が増加 土壙墓・配石墓・土器棺墓など

甲良町小川原遺跡

縄文時代後期（4000 年前頃）犬上川の扇状地
配石墓 3 基（脂肪酸の検出）、多数の配石遺構

能登川町正楽寺遺跡など 4 例

(5) 縄文時代晩期 墓の増加する時期、北迎西海道遺跡など土器棺が群集。

滋賀里遺跡 土壙墓 100 基以上、屈葬遺体

北迎西海道遺跡 100 基以上土壙墓・土器棺墓群

この他に埋設土器（土器棺墓・甕棺墓）、土坑墓、木棺墓・木槨墓、埋設土器、配石墓、集石墓などの墓制がある
志那湖底遺跡など 40 遺跡以上

2. 人骨を検出した遺跡

早期 大津市石山貝塚 米原市磯山城遺跡 屈葬人骨

中期 大津市粟津貝塚 再葬人骨

後期 東近江市正楽寺遺跡 屈葬人骨 耳飾り

晩期 大津市滋賀里遺跡 屈葬人骨 多賀町土田遺跡 歯（抜歯か）

3. 志那湖底遺跡の土器棺墓

位置：草津市志那町の湖岸から湖底にかけて

調査：昭和 59 年・61 年度 琵琶湖開発事業（湖岸堤・浚渫工事）

遺構：土器棺墓 4 基、土壇、土器溜り、ピットなど

時期：縄文時代後期末～晩期前葉

志那湖底遺跡では、葉山川河口右岸の湖岸から沖合い約 400 m の湖底にかけて、縄文時代晩期の遺構が見つっています。

遺構は主に土器棺墓や土壇群、ピットなどで、住居跡は確認されていませんが、周辺にあったと思われます。遺構の出土地点は標高 82.8m 付近で、現在の標準水位よりも約 1.5m 低く、上流から運ばれた砂が堆積した高まり（砂州）の上に遺構が作られています。

土器棺墓は 4 基見つかりましたが、このほかにたくさんの土器がまとまって出土していることから、多くの土器棺墓があったと推定されます。この一帯は集落外の墓域と思われ、琵琶湖に面した砂州上に墓域を形成する風習は弥生時代の草津市烏丸崎遺跡にも見られます。烏丸崎遺跡では半島上に 200 基以上の方形周溝墓が作られています。

土器棺墓

T 1 S K 2

規模は東西 76cm×南北 53cm 土坑の底の部分が残る

2 個体の縄文土器深鉢を合せ口を使う 滋賀里Ⅱ式の深鉢

T 1 S K 3

規模は東西 1.2 m×南北 2.05 m 浅い土坑が残る

2 個体の縄文土器深鉢を合せ口を使う 滋賀里Ⅱ式の深鉢

T 2 土器棺墓 1

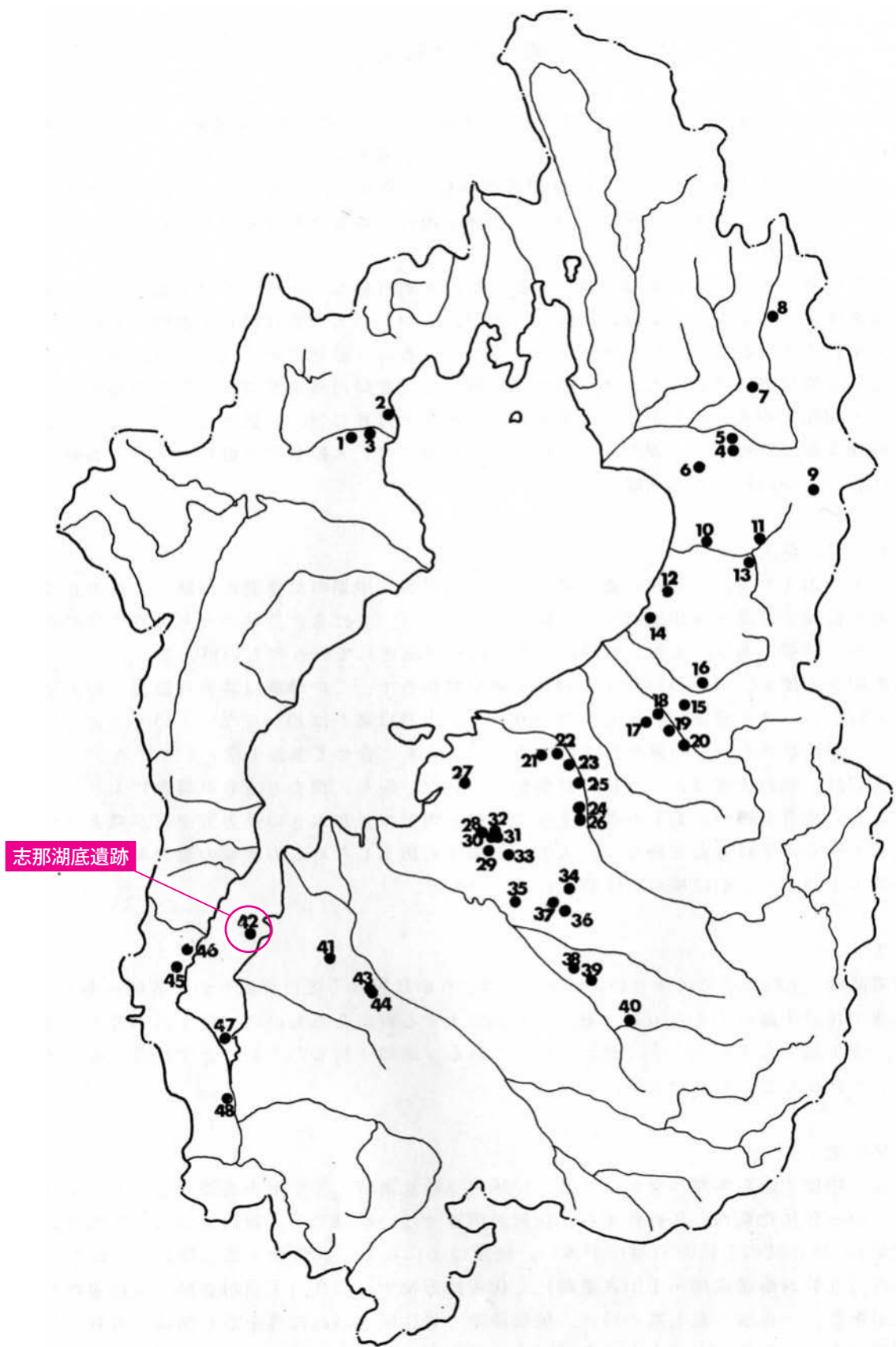
規模は 70cm×40cm 深さ約 15cm の土壇

3 個体の縄文土器深鉢を使用 棺として埋めた 1 つの深鉢に、蓋として 2 個体分の破片を置いたもの
滋賀里Ⅱ式の深鉢

T 2 土器棺墓 2

規模は約 70cm×約 35cm 標高 82.35 m で検出

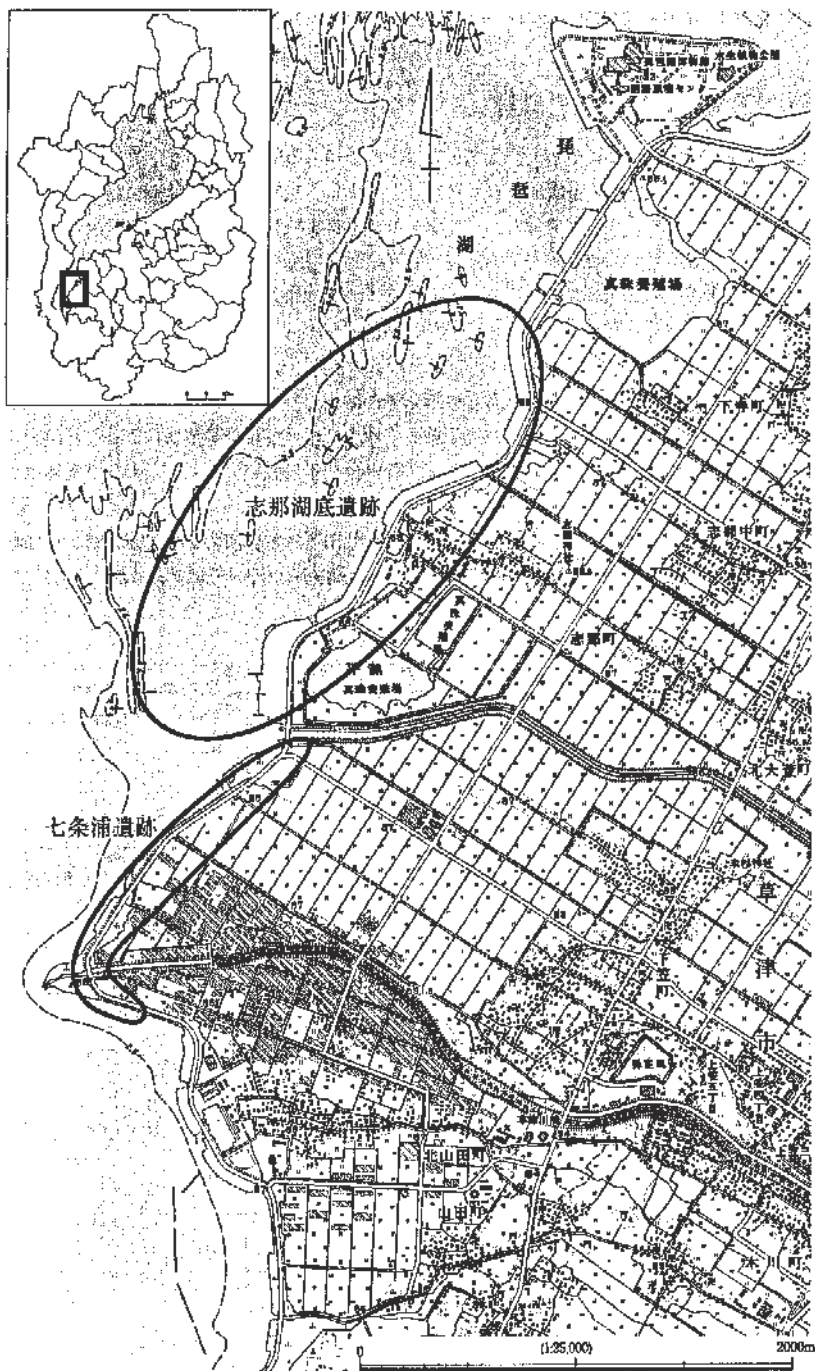
棺として埋めた 1 つの深鉢に蓋として他の深鉢の破片を置いたもの 篠原式



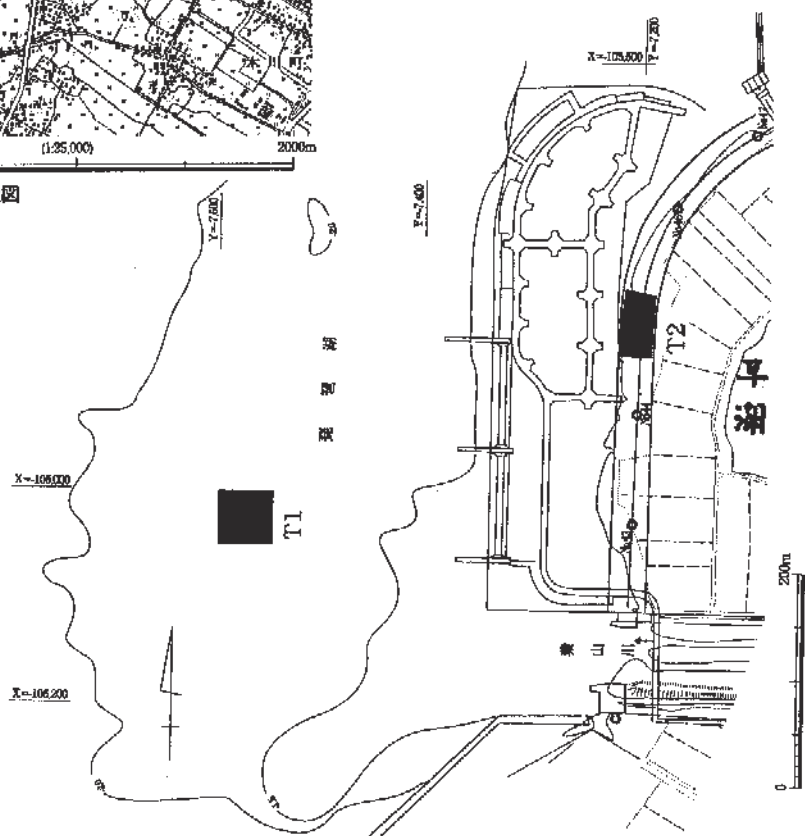
滋賀県下墓址・配石検出遺跡分布図

滋賀県下の墓址・配石検出遺跡地名表

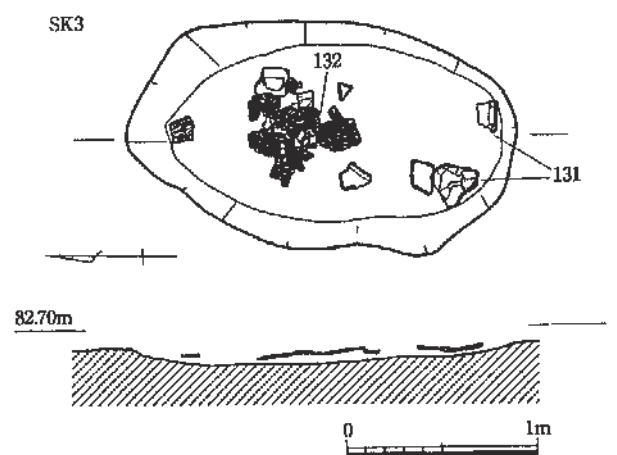
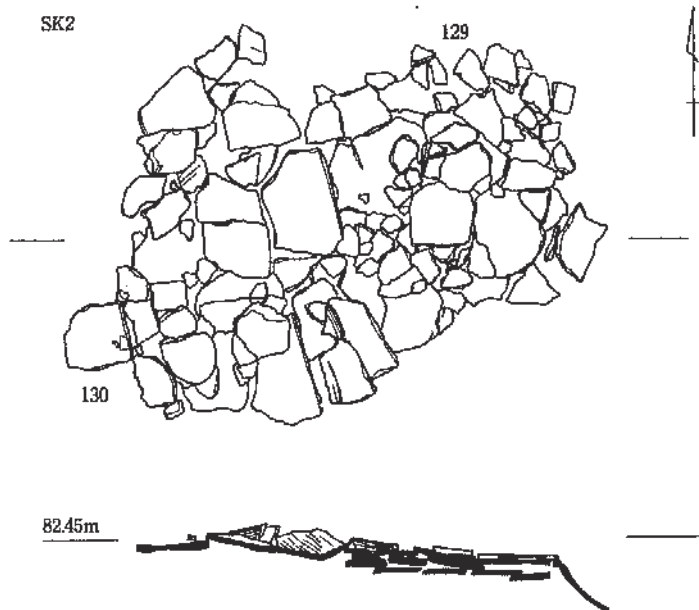
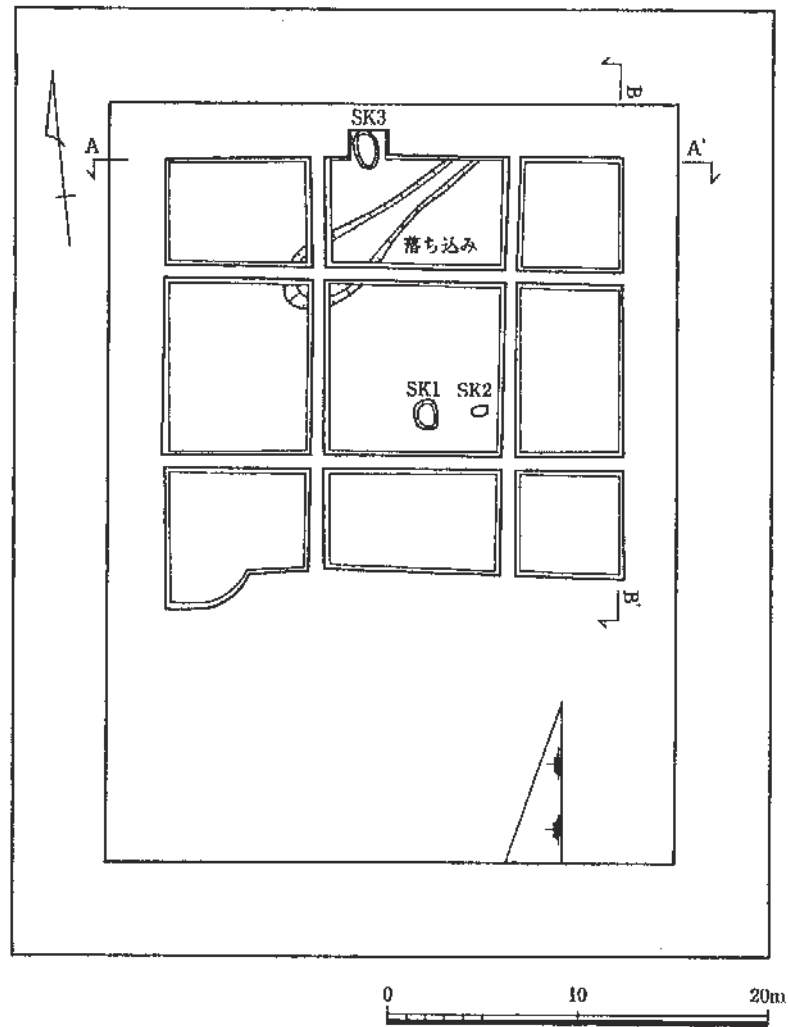
番号	遺跡名	所在地	時期	種別・数量	備考
1	弘部野	高島郡今津町	篠原	土坑墓40以上、埋設土器5基、配石3基	
			長原	埋設土器5基、土坑墓4基	
2	北仰西海道	高島郡今津町	後期末～晩期後半	土坑墓100基以上、埋設土器20基	ヒスイの管玉が出土する例あり。
			滋賀里Ⅲ	埋設土器51基	
			滋賀里Ⅳ	埋設土器18基	
			船橋～長原	埋設土器7基	
3	弘川	高島郡今津町	長原	埋設土器1基	
4	堀部西	長浜市堀部町	船橋～長原	埋設土器4基	
5	上寺地	長浜市垣毫町	長原	埋設土器？1基	
6	宮司	長浜市宮司町	後期中葉	埋設土器15基	脂肪酸。
7	醍醐	西浅井郡浅井町	中期末？	配石3基以上	
8	起し又	坂田郡伊吹町	中期末～後期初頭	埋設土器6基、配石4基	
9	杉沢	坂田郡伊吹町	長原・馬見塚	埋設土器9基	
10	浄蓮寺	坂田郡近江町	中津	埋設土器4基	
11	法泉寺	坂田郡山東町	滋賀里Ⅲ	埋設土器？4基？	
12	磯山城	坂田郡米原町	早期末	屈葬人骨2体	
13	三大寺	坂田郡米原町	長原・馬見塚	埋設土器1基	
14	松原内湖	彦根市松原町	晩期後半	埋設土器5基・土坑墓12基	
15	土田	犬上郡多賀町	篠原～長原	埋設土器19基・木棺墓1基・土坑墓数基	土器棺墓・土坑墓から歯出土。
16	久徳	犬上郡多賀町	長原	埋設土器1基	
17	尼子	犬上郡甲良町	長原	埋設土器1基	
18	小川原	犬上郡甲良町	北白川上層2期	配石墓3基以上・配石多数・埋設土器1基	骨片出土。脂肪酸。
			長原	埋設土器1基	
19	北落	犬上郡甲良町	宮滝から滋賀里Ⅱ	配石3基	周辺に土坑・小穴などあり。
20	金屋	犬上郡甲良町	船橋～長原	埋設土器4基・木棺墓2基	木棺墓より水銀朱出土。脂肪酸。
21	林・石田	神崎郡能登川町	広瀬40	埋設土器3基	1基より成人の焼骨？出土。
22	今安楽	神崎郡能登川町	中津～福田Ⅱ	埋設土器9基	
			後期中葉	埋設土器1基	
23	正楽寺	神崎郡能登川町	北白川上層1期	人骨1体	あんぎん状のものを敷いている。耳栓。
24	新堂	神崎郡五個荘町	北白川C～中津	埋設土器1基	
			晩期後半	埋設土器1基	
25	築瀬	神崎郡五個荘町	長原	埋設土器1基	
26	木流	神崎郡五個荘町	長原	埋設土器1基	
27	白王	近江八幡白王町	中津？	人骨1体	
28	後川	近江八幡市長田町	長原	埋設土器1基	
29	鷹飼	近江八幡市鷹飼町	晩期後葉	土坑墓1基	
30	御所内	近江八幡市御所内町	北白川C	埋設土器1基	石囲炉が周辺にあり。
			長原	埋設土器1基	
31	常衛	近江八幡市西生来町	北白川C	配石墓2基	
			篠原	埋設土器2基	脂肪酸。
32	上出A	近江八幡市御所内町・蒲生郡安土町	篠原～滋賀里Ⅳ	埋設土器1基	脂肪酸。
			滋賀里Ⅳ	埋設土器7基	脂肪酸。
			長原～弥生前期末	埋設土器14基・木棺墓12基	脂肪酸。
33	内野	蒲生郡安土町	長原	埋設土器1基	
34	日吉	八日市市建部日吉町	長原	埋設土器1基	
35	下羽田	八日市市下羽田町	長原	埋設土器3基、木柳墓1基、土坑墓1基	
36	柴原南	八日市市柴原南町	長原	埋設土器2基	脂肪酸。
37	布施横田	八日市市布施町	長原	埋設土器1基	
38	杉ノ木	蒲生郡蒲生町	晩期	埋設土器？数基？	
39	麻生	蒲生郡蒲生町	長原	埋設土器1基	
40	太田氏館	蒲生郡日野町	後期前半	埋設土器？1基	
41	吉身西	守山市守山町	宮滝	配石	
42	志那湖底	草津市志那町	滋賀里Ⅱ～篠原	埋設土器2基	
			晩期	埋設土器3基	
43	辻	栗太郡栗東町	北白川上層	配石、埋設土器	
			元住吉山Ⅰ	配石4基	
44	高野	栗太郡栗東町	船元Ⅲb	埋設土器？1基	
			滋賀里Ⅲ～長原？	埋石1基	
45	滋賀里	大津市滋賀里町ほか	滋賀里Ⅰ～長原	土坑墓109基以上	粘土と漆の混合土製品。玉出土。赤色顔料塗布。集骨。
			滋賀里Ⅲ～長原？	埋設土器8基	
			滋賀里Ⅲ	埋設土器17基	再葬あり。大洞系土器使用例あり。
			滋賀里Ⅳ	埋設土器3基	
			船橋～長原	埋設土器4基	
46	穴太	大津市穴太町ほか	元住吉山Ⅰ・Ⅱ	配石5基、集石2基	
			篠原～船橋	埋設土器7基	
47	栗津湖底	大津市晴嵐町	船元Ⅰ	頭骸骨、第一頸椎など。2体分	
48	石山貝塚	大津市石山寺	粕畑・入海Ⅱ	土坑墓5基	頭飾り。



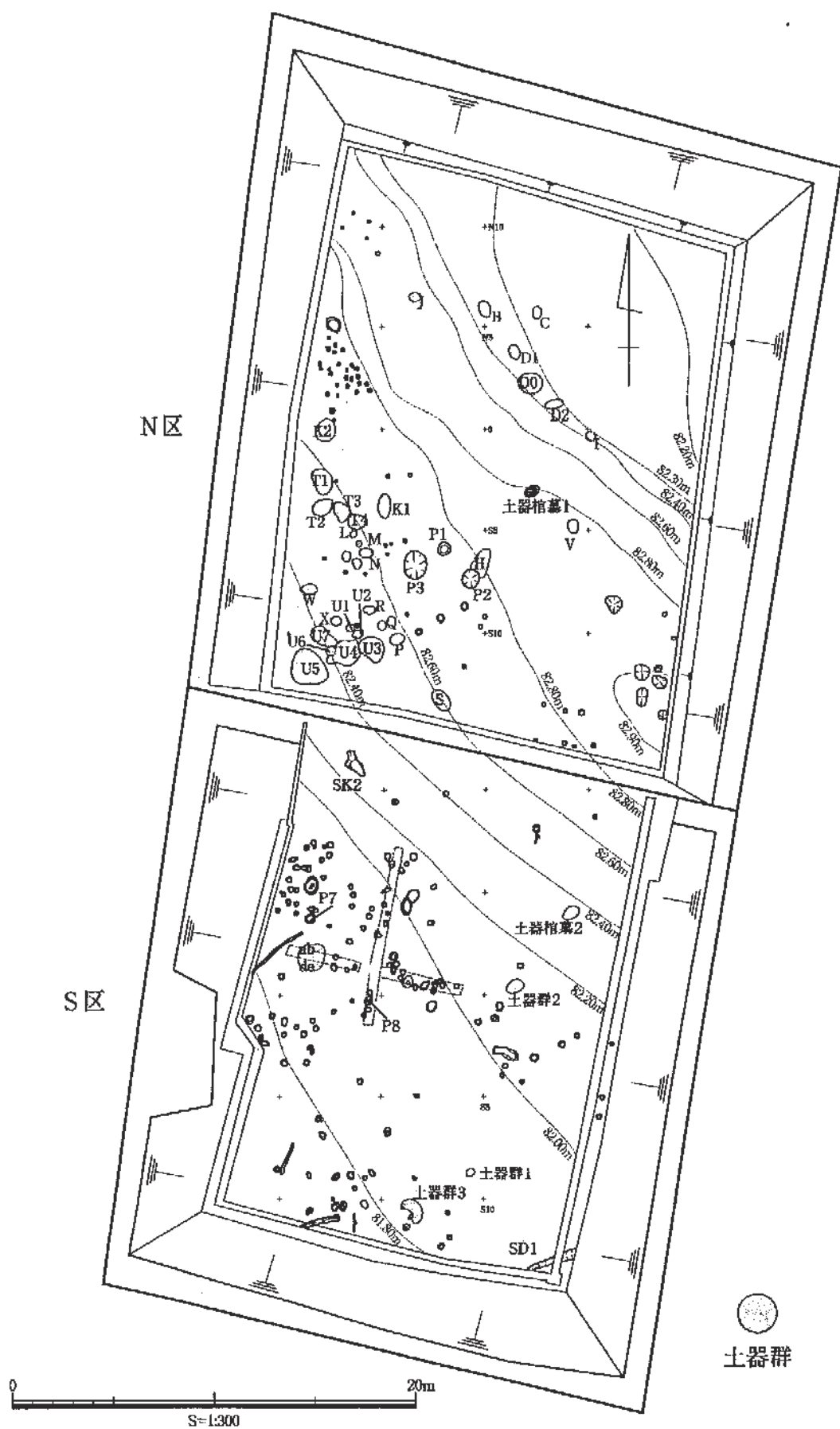
第2図 調査地位置図



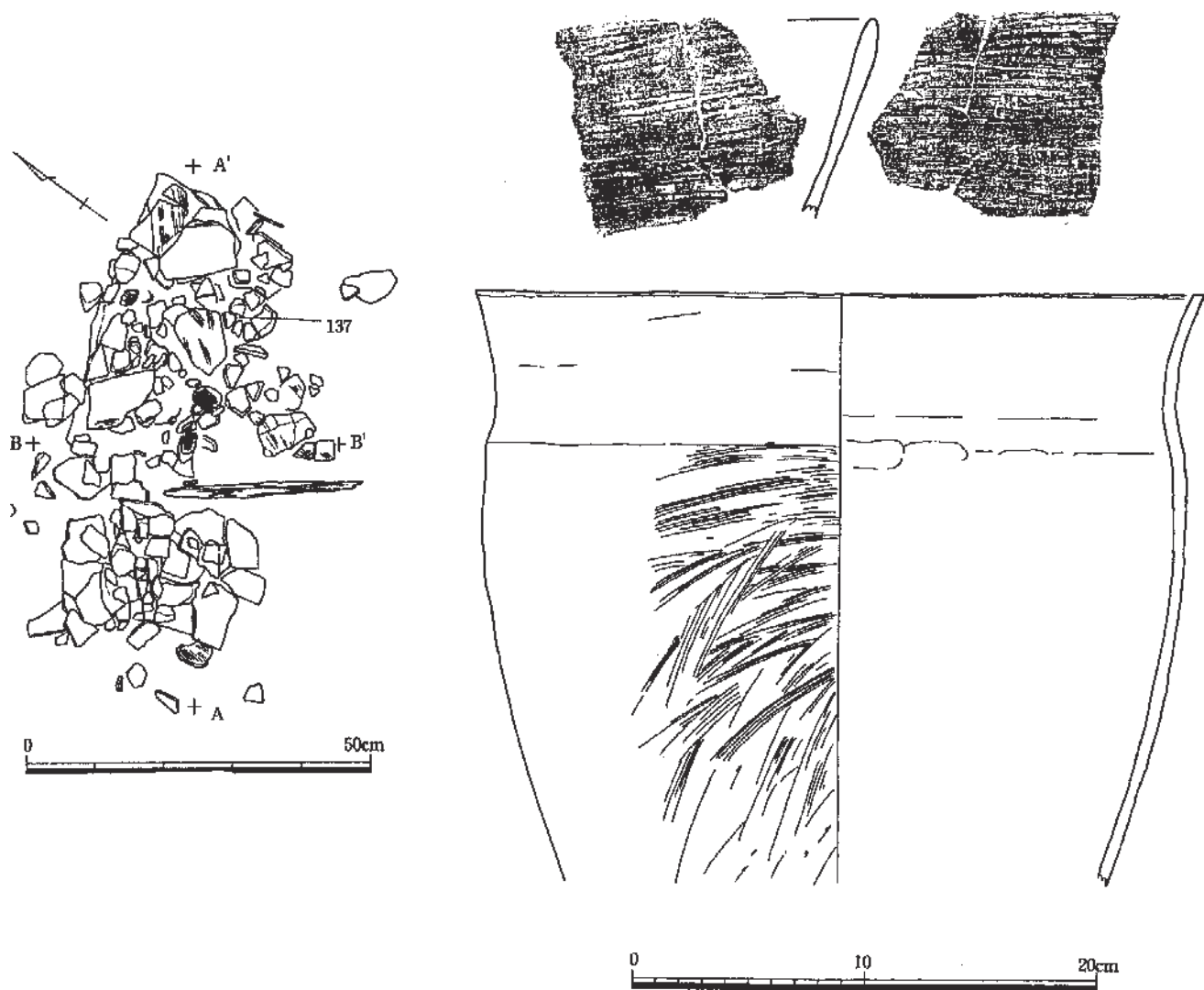
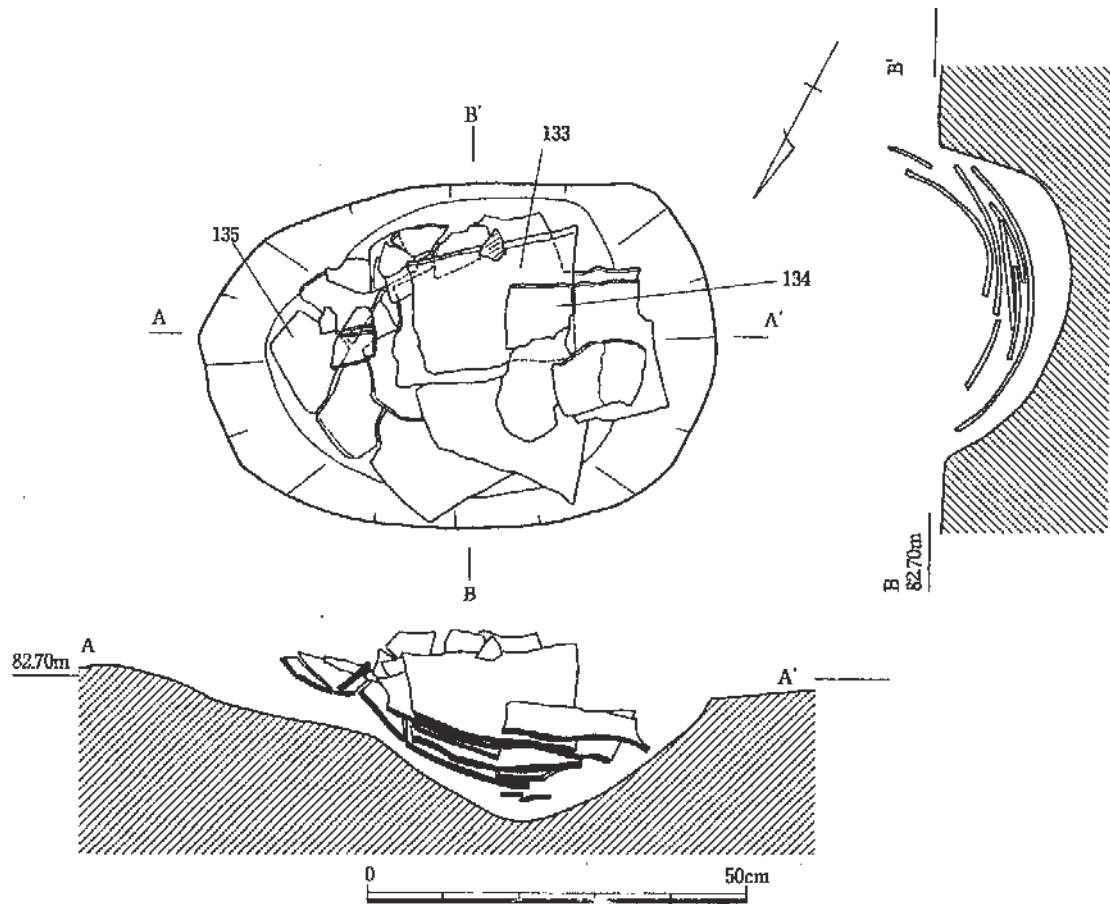
志那湖底遺跡位置図



志那湖底遺跡 T1 遺構配置図・SK2・SK3



志那湖底遺跡 T2 遺構図



T 2 土器棺墓 1・2

■ ホームページのご案内 ■ www.shiga-bunkazai.jp

財団法人滋賀県文化財保護協会は、文化財保護のための普及活動として、文化財に関する展示会（発掘調査埋蔵文化財展、成果展等）の開催や、出版物の刊行、体験イベント等を実施しています。これらの最新の情報はホームページに随時掲載しています。



ホームページでは、定番から知る人ぞ知る隠れたスポットまで、おすすめ Point を交えながら紹介する『新近江名所図会』や、エピソードを交えながらおススメの逸品を解説する『調査員のおススメの逸品』など、連載読み物も盛りだくさんです。ぜひ一度ご覧ください。

◇ 刊行物案内 ◇

シリーズ近江の文化財 004 縄文人のエコロジーとエコノミー 琵琶湖の貝塚・粟津湖底遺跡が語る秘密

一万数千年前、氷河期の終焉に伴って地球は温暖化し、環境は激変した。日本列島の人類は新たな適応を模索し、縄文時代が開幕する。その暮らしの秘密を琵琶湖の遺跡に探る。

- 【目次】
- プロローグ
 - 第1章 現代への胎動—縄文文化はじまる—
 - 第2章 甕を琵琶湖の縄文文化
 - 第3章 粟津湖底遺跡が語るもの—縄文人の食卓と四季
 - 第4章 展開する琵琶湖の縄文文化
 - 第5章 縄文人の折り
 - エピローグ

(600 円)

琵琶湖の考古学 1 琵琶湖をめぐる交通と経済力

- 【目次】
- 序章 琵琶湖をめぐる交通と経済力
 - 第一章 東西南北を結ぶ琵琶湖
 - 第一節 日本海ルートとの終着点としての琵琶湖
 - 第二節 急がば回れ瀬田の長橋
 - 第二章 古代琵琶湖の水の道
 - 第一節 古代琵琶湖のターミナル
 - 第二節 北の要 塩津港
 - 第三章 中世琵琶湖をめぐる人々
 - 第一節 中世琵琶湖の経済
 - 第二節 中世琵琶湖の交通とくらし
 - 第四章 琵琶湖を続ける人々—中世から近世へ—
 - 第一節 信長と琵琶湖
 - 第二節 秀吉と琵琶湖
 - 第三節 家康と琵琶湖
 - 第五章 近世の経済と琵琶湖
 - 第一節 大津の繁栄とその背景
 - 第二節 彦根の水運
 - 第六章 琵琶湖へのまなざし
 - 第一節 琵琶湖の船
 - 第二節 水上交通から陸上交通へ
 - 第三節 琵琶湖に夢みたこと

(1,680 円)

管理運営を行っている滋賀県立安土城考古博物館、滋賀県立琵琶湖文化館、滋賀県埋蔵文化財センターのホームページもご覧ください。



www.azuchi-museum.or.jp



www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/



www3.ocn.ne.jp/~shiga-mc/

埋蔵文化財整理調査成果報告会

あの遺跡は今! part12

私たちは文化財をとおして
ゆたかな郷土づくりに貢献します。



財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage